

元会長、元LESI会長 御船 昭様のご逝去を偲ぶ

(i) 御船さんのご逝去を悼んで

元会長 高柳 昌生※

去る6月27日に元会長の御船昭さんが亡くなりました。欠かさず出席されていた年次大会や総会にしばらくお見えにならなかったのが心配していたのですが、悲報に接し本当に残念です。心よりお悔やみ申し上げます。

御船さんは1970年代に当協会に入会され、1987年から1989年まで当協会の会長を、1991年～1992年にかけてはLESIの会長を務められ、そして2003年にはLESIからgold medalを受賞するなど、40年近くに亘りLESに多大な貢献をされ、今日までなおactiveに活動されておられたLESの偉大な先駆者の一人でした。

御船さんに最初にお会いしたのは1970年代に、当時の日本特許協会（現日本知的財産協会）が「UNCTADの国際的技術移転に関するコード・オブ・コンダクト」ドラフトを検討するためのtask forceを結成した折でした。御船さんは確か国際政策委員会の代表として私はライセンス委員会の委員長代行としてtask forceに参加し協力して意見を取り纏めたのですが、御船さんのglobalな広い視野やfrank, flexile且つfriendlyなご姿勢に大変感銘を受けました。

1980年代、御船さんが帝人の特許部長をされているときには、特許侵害係争案件で交渉の当事者として向き合いました。私は権利者側で相手が御船さんということもあり難航が予想されましたが、熱い議論を戦わせた後はちょうど良いところに収まりました。御船さんは、お互い

に信頼し合う者同士の仕事は収まるところに収まるというLESの真髓をon the jobで後進に教えてくれたように思います。それがきっかけとなりまもなく私はLESメンバーになったのですが、御船さんは温かく迎え入れてくれたうえに私をまるで弟子のように他のメンバーに紹介して頂きましたので、私はLESに短期間で溶け込むことができ素晴らしいネットワークを容易に築くことができました。後年私が会長に推挙されたのも方角も分からない新入メンバーのころに御船さんのような方にmentoringされた幸運が多分に働いていると思わざるを得ません。

御船さんは、当協会や日本のメンバーのglobalizationを常に呼びかけ率先垂範されました。御船さんの画期的な業績の一つとして後世にまで称えられるものは、御船さんが提唱され最初に編集に携わられた定期的なLES Japan発の英文情報誌“Winds from Japan”の刊行だと思っています。また、2002年にLESIの年次大会が大阪で開催されたのは、招致から準備、実行に至るまで御船さんの獅子奮迅のご活躍抜きには考えられなかったと思っています。大会のスピーカーへはお礼の印として一刀彫の見事な鷹の彫刻品が贈られましたが、その品は御船さんが厳選されたものでした。私が初めてワークショップでスピーカーを務めて頂戴したその品は御船さんを偲ぶ思い出の一品となりました。

2010年の秋は、プライムタイムのNHKニュースに御船さんのインタビューが放映され

たのにはびっくりしました。ノーベル化学賞を受賞された根岸英一さんが米国在住だったため、帝人時代に元同僚として親しかった御船さんが根岸さんの紹介者としてNHKのインタビューに応じられたようです。私が放映後直ぐに電話すると、連絡いただいたのは高柳さんが第一号ですと喜んでおられました。その後根岸さんの実際のインタビューをTVで聞いたのですが、「日本の若者はもっと海外に出て外から日本を見てはいかがでしょうか。」と、御船さんと同じようなことを言っておられたので、御船さんがインタビューを代行されたもう一つの理由を発見したと思ったものでした。

御船さんは、生涯現役を貫かれMr. LESの称号に値する方でした。我々に多くのものを残され、特にLESにおけるボランティア精神の尊さを教えて頂いたように思います。我々はその志を受け後進に伝え行く責務があると強く思っています。御船さんと同世代に生き、共に仕事をし、LESのactiveメンバーとして共に楽しんだことを嬉しく誇りに思います。御船さん、本当にありがとうございました。安らかにお眠りください。

合 掌

(ii) Tribute of Dr. Akira Mifune

元会長 福田親男 LESI Past President for 2008*

Dr. Akira Mifune passed away in Tokyo on June 27, 2013. Akira joined LES Japan at the very early stage of its foundation back in 1972 and has been very active both in LES Japan and LESI and made numerous contributions to develop LES families. Akira was the President of LES Japan from 1987 to 1989 and the President of LESI for 1992. Akira was awarded the Gold Medal from LESI in 2003. Among others, in 1996, he took the initiative to start “Winds from Japan”, an informative English language news to introduce LES Japan and Japanese IP matters to friends and members in LES family. The publication is presently issued two to three times a year on the LES Japan Website.

Akira was born on December 1, 1928 in Nagasaki Prefecture, Japan. In 1945 Akira entered Naval Academy where he acquired many lifetime friends. In 1952 he graduated

from Tokyo Institute of Technology and started his carrier at Teijin Limited, involved in research on synthetic fibers, and in 1961 he was awarded a Doctor of Engineering on the Research of Polyethylene Terephthalate. Since mid-1970 Akira had been responsive to IP matters in Teijin for about 20 years and established the computerized IP management system and was involved in many infringement suits and “preventive” technology licensing negotiations.

Besides the business, I know Akira had a love for pictures and chorus. Since mid-50th Akira started taking pictures. Many LES people know his eagerness about pictures, and on later days he often joined Photo-Exhibition and I recall visiting his group’s exhibition many times. Akira joined the chorus group of Teijin, and after retirement from Teijin he restarted the chorus by joining a group of Naval

*福田・近藤法律事務所 弁護士

Academy classmates. His group was awarded the Tokyo Metropolitan Mayer's prize. We all will miss a great pioneer in technology transfer and in the LES family.

(本稿は、LES Global News 2013年9月号に掲載された記事を許可を得て転載しております。)

(iii) 恩人、御船 昭さんを偲んで

次期会長 中 富 一 郎^{※1}

故人、御船 昭元会長および奥様とのご縁は、21年前（1992年）の米国フロリダ州ボカ・ラトンで行われたLESI年次大会に遡る。故人がInternational Presidentに就任されていて、雄弁とカメラに活気あふれるご活躍をされている時でしたが、私が初めてLES大会に参加した時でしたのでLESの関係者で初めてお会いした日本人が故人であり、私がLESに関わるきっかけになったご縁です。その後は、故人の学識背景が高分子ということもあり、私が代表として所属した米国企業の日本子会社、日本セラテック株式会社の設立や現在のナノキャリア株式会社の設立時に知財担当の社外取締役として関わっ

ていただき、大変お世話になりました尊敬する人物です。

本年6月27日（享年86歳）に亡くなる悲しい知らせを奥様からいただいた時は、治療のご相談は受けていたものの、何もして上げられなかった悔しさと無念さが汲み上げた瞬間でした。毎年参加いただいていた株主総会に来られなかったことで、心配で気になっていた直後の出来事でした。最近の故人は、熱心に治療の勉強をなさるお姿が、以前の合唱団や写真撮影など何事にも努力される積極的なお姿と重なり、本当に偲ばれてなりません。

(iv) メンターとしての御船昭元会長

元副会長 奥 山 尚 一^{※2}

ギリシャ神話の中で、オデュッセウスの友人でその息子テレマコスの指導者に任ぜられたメンテースという人にちなんで、自分の仕事やキャリアの手本となり、助言をしてくれるよき指導者のことを英語でmentorといいます。私にとって、御船さんはまさにそのメンターでした。

御船さんには、1996年に最初にお目にかかったと思います。私が弁理士になってやっと6年目に入った頃です。当時、御船さんは、もう既

にLESインターナショナルの会長などの要職を歴任されており、日本ライセンス協会も英文での情報発信が必要であると痛感されていたのでしょう。現在、東京理科大の教授である藤野仁三さんに紹介していただきました。最初にお目にかかったときには私は日本ライセンス協会の会員ではありませんでしたが、5名のチームの中でいきなり元会長に直接ご指導いただくことになりました。幸運でした。私の原稿に問題があれば容赦がありませんでしたが、若輩者にも

※1 ナノキャリア株式会社 代表取締役社長

※2 久遠特許事務所 弁理士

丁寧に説明してくださいました。また、チームにいらした岩崎洋一郎さんに英語の指導をいただいたこともニュース記事を書いていく上で大変役に立ちました。WINDS from Japanというタイトルもみんなで時間をかけ苦勞して決めたのですが、その後も一号一号、丁寧に作っていました。

そして、折に触れて御船さんといろいろなお話をすることができました。江田島を含めた学

生の頃のことから、帝人にいらした頃のこと、合唱のこと、家庭のこと、ライセンス協会の活動についてなど、いずれも回顧というのではなく、いま現在に結びつけて話していただいたように思います。普通の会話ですが、人生のヒントに富んでおり、時々思い起こしては、自らの反省にしていることも多くあります。

この場をお借りして私の心からの感謝の気持ちを表すとともに、御冥福をお祈りします。

(v) 「WINDS創刊秘話」

藤野 仁 三*

LES JAPANだけでなくLES INTERNATIONALにも大きな足跡を残された御船昭さんが亡くなられた。御船さんは、英文ニューズレターWINDSの産みの親であることはあまり知られていない。創刊時の秘話を紹介して、御船さんへの追悼としたい。

それは1996年のことであった。確か、2月のLESJ定時総会の後の懇親会であったと思う。御船さんから、知財関係の英文ニューズレターを海外に発刊したいので協力して欲しいというお話をいただいた。御船さんは、常々、日本からの情報発信の少なさを嘆いておられており、筆者もその必要性を感じていたので即座にお引き受けした。御船さんはその時、金山敏彦さん、岩崎洋一郎さん（退会）にも声をかけられたようだ。私から、AIPPIでもご一緒したことがある奥山尚一さんを推薦し、それで創刊時の編集メンバーは決まった。

英文ニューズレターの名称が最初の課題であった。御船さんはWINDSを提案した。当時の日本航空（JAL）の機内誌のタイトルで、御船さんが海外出張のたびに目に触れ、気に入っていたのであろう。対案もあったがWINDSに

勝るものは無かった。問題は、WINDSの商標権のクリアランスであった。確か御船さんがJALにかけあって使用許諾を得るということで決着がついたように記憶している。

発刊当時、御船さんは三和総研に所属していた。編集会議は新橋の同社オフィスで行うことが多かった。毎号の発刊前に2～3回の編集会議を開催していた。いつだったかは忘れたが、編集会議の後、新橋駅前のキムラヤで、WINDS用の編集ソフトを選びに出かけたことがある。トライアル号を含め、それまでは御船さん所有するソフトで手作りしていた。編集作業は原始的で、紙面に合わせるために字数やフォントを調整したり、日本的なデザインを入れたりしていた。紙面をもっと垢抜けしたものにしようと、アップグレードした編集ソフトの物色に繰り出したのであった。

1996年にトライアル号を2回発刊した。それは御船さんの草稿がベースとなった。正規版第1号は1997年からのスタートであったが、他の編集委員も記事作成に本格的に関わるようになった。岩崎さんがデスク役で専ら英文校正に関わっていただいた。今でも覚えているが、岩崎さんの校正は厳しく、時には原型をとどめな

*東京理科大学専門職大学院教授

いほど修正が入ったこともあった。英文の質が格段によくなっていたので、原稿執筆者からは文句は出なかった。今、振り返ると、なつかしい思い出である。

御船さんは、俳人でもあり、写真家でもあった。2003年に出された写真集に掲載され俳句の

中から下記の一句を引用させていただき故人を偲びたい。合掌。

春爛漫 腕を競いし 阿波踊り

(2002年 LES INTERNATIONAL大阪大会にて)

訃報 藤本敏男元会長ご逝去

日本ライセンス協会会長 原嶋克巳*

第6代日本ライセンス協会会長として1982年から1983年までの2年間私たちをリードしてくださいました藤本敏男元会長が、8月7日、老衰のためご逝去なさいました。89歳でした。藤本氏は本会の特別会員でもありました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

今年我々は大事な元会長を2名失いました。本号は6月に亡くなられた御船昭元会長の追悼特集が組まれています。次号では藤本元会長を追悼する記事を広く会員の皆さんにお願いすることになるでしょう。皆さんと共に故人を偲ぶ場にしたいものです。

なおこの訃報は関西の福田晃会員、および伊

藤良一会員から本部にもたらされました。たまたま新聞の整理をしていたお二人が訃報の中に元住友精化専務、藤本敏男氏のお名前を見つけられ、もしや元会長ではとの思いから、確認して下ったものです。情報の提供に感謝する次第です。

葬儀には間に合いませんでしたが、日本ライセンス協会として藤本元会長夫人の緑様にお花とともに弔意をお届けいたしました。「一緒に勉強をさせていただき、お世話になった皆様からのお花ですよと言ってさっそく仏前に飾りました。」との奥様からのご丁寧なお返事もいただいています。

以上